

25083C

見栄え抜群の新品種「みはや」の栽培を確立して年内産カンキツを活性化

1 代表機関・研究総括者

(独) 農研機構果樹研究所・塩谷 浩

2 研究期間：2013～2015年度（3年間）

3 研究目的

生産過剰と温暖化による品質低下に苛まれる温州ミカンを補完するため、外観美麗で温暖化にも適応する新品種「みはや」を速やかに普及させて年内産カンキツを活性化し、生産者の収益改善を図る。

4 研究内容及び実施体制

① 「みはや」の早期成園化システムの確立

「みはや」栽培開始からの未収益期間の短縮と省力化を実現する栽培システムを開発する。(福岡県農業総合試験場、長崎県農林技術開発センター)

② 高品質果実安定生産のための栽培技術の開発

「みはや」の美麗な外観で低酸・高糖度の優れた果実特性を安定して発揮させる栽培技術を開発する。(熊本県農業研究センター)

③ 「みはや」早期成園化・高品質果実生産技術マニュアルの作成

研究で確立した技術について、その手順を明快かつ具体的に記したマニュアルにして刊行する。(独) 農研機構果樹研究所)

④ 普及支援業務

開発した早期成園化システム並びに高品質果実安定生産技術を現場で実証することによって技術を確立し、普及を促進する。

(熊本県農業研究センター・熊本県天草地域振興局農林水産部)

5 達成目標

「みはや」栽培の開始早期から収量と果実品質を高度かつ省力的に安定生産するための栽培管理、大苗育苗、経営モデルをマニュアル化することにより普及を加速化させる。

6 期待される効果

年内産カンキツの購入にあたり選択肢が増して消費が促進されるとともに生産者の労力分散と所得向上が期待される。また、早期成園化システムが後継者不足を緩和して地域経済を活性化する。

見栄え抜群の新品種「みはや」の栽培を確立して年内産カンキツを活性化

◎カンキツ産業の課題

- 温暖化による温州ミカンの品質低下
- 消費の低迷_特に温州ミカン
- 消費者ニーズ多様化への対応遅滞

温州ミカンを補完する新品種
速やかな産地導入が必要



◎「みはや」の特徴

- 11月下旬に成熟する芳香の高いカンキツ。
- 温暖化の影響は少なく浮き皮しない。
- 真紅で滑らか、酸味が少なく高糖度、薄いじょうのう膜で食味良好。
- β-クリプトキサンチンを高含有する。
- ×糖度が栽培・環境条件によって著しくばらつく。

速やかな産地導入をはかるために

○「みはや」の早期成園化システムの確立

- ・大苗育苗生産技術の確立
- ・大苗定植技術の確立
- ・計画的密植のための省力的集約栽培技術
- ・樹冠拡大技術の開発



高品質果実安定生産のために

○高品質果実安定生産のための栽培技術の開発

- ・シートマルチ栽培による高糖度果実生産技術の開発
- ・外観向上による高品質果実生産技術の開発



「みはや」早期成園化・高品質果実生産マニュアルの作成

- ・「せとか」と「みはや」が同等の単価を得られた場合、極早生温州から更新すると1日当たり所得では約2倍の所得向上が見込まれる。
- ・中晩生カンキツ地帯に導入すると農家の労力分散と早期の収益が期待される。
- ・年内産カンキツの購入にあたり選択肢が増すことで消費が促進される。